

生まれ変わるためには一度死ななければならない

「困難を乗り越えて人は強くなる」とはだれでも言うことである。このことを、心理学者で文化庁長官になった河合隼雄が説得力のある言葉でわかりやすく説明している。人が成長するときは、死線をかいくぐるくらいの劇的な体験、すなわち「死と再生」が必要なのである。

「成人式」といえば大人になることを社会的に認められる儀式であるが、世界には、これに厳しい試練を課す地域が今でも存在する。足にツタを結び付け高い木の上からバンジージャンプをさせたり、山奥に一週間放り込んで一人で生き抜くことを命じたりするのである。これらをやり遂げて初めてその少年は、大人として地域社会に認めもらえるのだという。原始時代に近い生活をいまだに営んでいる、いわゆる「未開」といわれる国々では特にそうである。試練の中で命を落としたり、怖気づいて脱落するものもあるだろう。彼らは運がなかった、意気地がなかった、で終りである。一見非人道的で野蛮な風習だが、ここに、「子ども」が「大人」になる過程が象徴的に示されていると河合氏は言う。

では、現代の日本に生きる私たちはどうだろう。多くの若者が成長し立派な大人となって社会で活躍しているが、山中サバイバルなどやっている地域はないだろうし、許されるはずもない。ではどうやって私たちは「死と再生」を体験しているのか。それは、日常生活の中で、少しずつ時間をかけてなされていくのだと、河合氏は言う。つまり、一回の試練に相当する勇気や決意、それに伴う危険や痛みを小分けにし再生体験を繰り返していくのだ、と。例えば、文化祭の出し物でクラスの意見がまとまらず仲間割れが始まったが、開催直前になって皆が和解し、それまでどうって変わって素晴らしいチームワークで良いものを完成し、涙を流して喜んだ、といった体験である。また個人レベルでも、数学の難しい問題に取り組み数時間かけてやっと解放の糸口をつかみ躍り上がって喜んだなどというのも「死と再生」と言える。

さて、この勝負の一年、君たちは何回くらい「死」んで、「再生」するだろうか。先を見渡すと、その機会は十二分にありそうだ。一つ一つの試練を乗り越え、引き締まった大人の顔になっていく君たちを日々見守っていきたい。・・・医学的に死んでしまっただめですよ。念のため。

学年主任 K. T

週行事予定表 (4 / 9 ~ 4 / 22)

月	日	曜	行事予定	備考
4	9	土	入学式・生徒会入会式	8:20登校
	10	日		
	11	月	代休	
	12	火	第1回実力養成考査(英語・地歴・理科)	8:20登校
	13	水	朝課外開始	7:25着席
	14	木		7:25着席
	15	金		7:25着席
	16	土		
	17	日		
	18	月		7:25着席
	19	火	各種委員会 検尿1次	7:25着席
	20	水	検尿1次	7:25着席
	21	木		7:25着席
	22	金	身体測定 全統マーク模試	7:25着席